

● 薬事・食品衛生審議会において公知申請に係る事前評価が終了し、薬事承認上は適応外であっても保険適用の対象となる医薬品

一般名	販売名	会社名	追記される予定の効能・効果 (下線部追加)	追記される予定の用法・用量 (下線部追加)	追記される予定の注意喚起 (下線部追加)	保険適用日
乾燥人フィブリノゲン	フィブリノゲンHT静注用 1g 「JB」	(一社)日本血液製剤機構	先天性低フィブリノゲン血症の出血傾向 <u>産科危機的出血に伴う後天性低フィブリノゲン血症に対するフィブリノゲンの補充</u>	<p><先天性低フィブリノゲン血症> 注射用水に溶解し、静脈内に注入する。通常 1 回 3 g を用いる。なお、年齢・症状により適宜増減する。</p> <p><後天性低フィブリノゲン血症> 注射用水に溶解し、1 回 3 g を静脈内投与する。 投与後に後天性低フィブリノゲン血症が改善されない場合は、同量を追加投与する。</p>	<p>【効能・効果に関連する使用上の注意】</p> <p><後天性低フィブリノゲン血症></p> <ul style="list-style-type: none"> ・後天性低フィブリノゲン血症とは血中フィブリノゲン値が150mg/dLを下回る状態であることに注意し、本剤投与の適否を判断すること。 ・本剤投与直前の血中フィブリノゲン値を必ず測定し、基本的に血中フィブリノゲン値の測定結果を確認した上で投与を開始すること。 ・本剤投与の適否や投与開始時期の判断にあたっては、関連学会のガイドライン等、最新の情報を参考とすること。 <p>【用法・用量に関連する使用上の注意】</p> <p><効能共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸注速度が速すぎるとチアノーゼ、心悸亢進又は血管内凝固による栓塞を起こすおそれがあるのでゆっくり注入すること。 <p><後天性低フィブリノゲン血症></p> <ul style="list-style-type: none"> ・出血に伴う後天性低フィブリノゲン血症が改善されない場合における本剤の追加投与の適否は、フィブリノゲン以外の因子の出血への関与の可能性も考慮して慎重に判断し、本剤を漫然と投与しないこと。なお、本剤の追加投与の適否の判断にあたっては、関連学会のガイドライン等、最新の情報を参考とすること。 	2021年9月6日